

## 装いの民俗

今回のかやぶんかわら版では、前号に引き続き、明野歴史民俗資料館第15回企画展「装いの民俗」についてお伝えします。今号では、衣生活周辺の民俗や、モノの発展についてご説明します。(内海)

かつて、衣服はどのようなで作られたのでしょうか？

### 素材

江戸時代中期頃から、仕事着に木綿が使われるようになりました。峡北地方でも明治時代頃までは綿の栽培が行われていましたが、次第に減少し、綿糸は購入することが多かったようです。養蚕ようさんをしている家では、出荷できなかつたタママユたままゆ(蚕ひきが二疋入った大きな繭まゆ)やビショマユくずまゆ(屑繭)を使って絹織物を作り、余所行きや普段着としていました。



### 織り

購入した綿糸わたいとを使って機織はたおりをしました。自宅で行う機織りを「ウチオリ」といいます。昭和に入り、機織機がある家が少なくなると、機織りが得意な家に頼んだり、綿布わたぬいをミセみやうしやうや行商から購入しました。

### 染め

綿もしくは絹の糸や布こゝろやは、紺屋くろや(染物屋)で染めてもらいました(自宅で染め粉あいでを使って染めることもありましたが)。木綿は藍染あいでめにする事が多く、紺屋には、縞模様かじりだけでも数百種類のパターンがあったといい、花柄はながらのように見える大正緋たいしやうがすりなども登場し、染色は次第に装飾的になっていきました。紺屋は、昭和30~40年代頃まであったといい、その後は、市販の仕事着を購入するようになりました。

## 〜裁縫〜



糸・針・ヘライタゆびぬき・指貫ゆびぬきなどが入った「針箱」は、他の裁縫道具とともに嫁入り道具として持参しました。裁縫のうかんきは農閑期の仕事でしたが、カルサンなどの簡単なものは農閑期以外でも縫ったといいます。大正時代にはミシンが普及しますが、初期のものはほとんどが輸入品でした。国産のミシンが多く作られるようになるのは昭和初頭で、手回し式、足踏み式と発展していき、峡北地方でも、昭和10年代には足踏みミシンが普及しました。

装いにまつわる道具の変遷



## 〜洗濯〜



かつては、たらいと洗濯板せんたくばんを使って洗濯せんたくをしました。たらいは、嫁入り道具のひとつでした。昭和5年に、洗濯機が初めて国内生産されました。昭和30年代には洗濯機能せんたくきんごうのみの一槽式の洗濯機が普及し、昭和40年代には脱水機能たいすいきんごうがついた二槽式の洗濯機が登場しました。

炭アイロン



## 〜アイロン〜

アイロンの一番古い形は火熨斗ひのしです。真鍮製しんちゆうせいで、鍋のような形状をし、底が平らで柄がついています。中に炭火を入れて熱し、平らな底を押し当てて布しやの皺しわを伸ばしました。明治時代には、炭アイロンがヨーロッパより伝わり普及しました。日本では囲炉裏いろりや火鉢から容易に炭を入れることができたため、火熨斗も炭アイロンも広く普及しました。昭和30年代には電気アイロンが普及し、火熨斗も炭アイロンも衰退しました。



手前から時計回りに、火熨斗・電気アイロン・炭アイロン・焼きゴテ

# こども神楽教室ニュース

かやぶんが平成15年度より始め、今年で8年目を迎える「こども神楽教室」。かやぶんの会員であり、小学3年生の時から「こども神楽教室」に参加している堀内涼汰くん(中学1年生)の、「お神楽から知り得たこと」という作文が、読売新聞社「第60回全国小・中学校作文コンクール」山梨県審査会にて優秀賞を授与されました。かやぶんかわら版では、3回に分けて全文を掲載します。

\*\*\*\*\*

## 「お神楽から知り得たこと」①

ある日、学校から一枚のチラシが配られました。そのチラシには、ぼうぼうとひげを生やし、怖い目付きをした面をかぶり、きらびやかな衣装をまとい、大きな太刀を持って須佐之男命舞を舞っている中学生の写真がのっていました。私は、一目見て「格好良い。」と思い、興味を持ちました。これが、私とお神楽との初めての出会いでした。

私は、小学三年生から小中学生を対象としたお神楽教室に通っています。お神楽とは、神社で舞う、日本古来の神様を楽しませる音楽と踊りです。春祭りには豊作や人々の安全を願い、秋にはそれを感謝するために舞われます。

ある時、お神楽を習い始めたんだとクラスの友達に話しかけてみました。すると、

「お神楽って一体何？」

と聞き返されました。「神社のお祭りでお面をかぶって踊っているやつ。」と言って

「ああ、あれか。」

となんとなく分かってもらえました。お神楽を知らない人が意外に多いことを実感させられました。私が通っているお神楽教室では、中には九十歳を越えているおじいさま方が教えてくださっています。若い私たちが、お神楽を次の世代に伝えていかななくては、とつくづく感じています。



## =ドキドキ! まいぶんシリーズ=

2010年 1月の予定～

### ★おばあちゃんの知恵袋

和紙の凧を作って遊ぼう！  
高～くあがるかな♪

日にち：1月19日(水) 午後5時～7時

### ★Specialイベント:Let's縄文体験!

人気イベント、縄文体験！  
縄文のアクセサリ、「勾玉」を作ろう♪  
日にち：1月22日(土) 午後5時～7時

### ★囲碁に挑戦!

楽しみながら囲碁のルールを覚えよう☆  
はじめてのお友達でもだいじょうぶ！  
日にち：1月24日(月) 午後5時～7時

ドキドキ! 埋文シリーズで、いろんな体験を楽しもう♪ 参加者申し込み受付中です！  
お問い合わせは茅ヶ岳歴史文化研究所まで。

## =会員募集=

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

### こんなことをやってみたい人は、ぜひ!

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金：1000円 年会費：1000円

## =編集後記=

2010年もとうとう終わろうとしています。年内は27日まで、年明けは5日からの開館になります。かわら版でご紹介してきた、企画展の「装い」にまつわる様々な民具をご覧になってみてはいかがでしょうか。皆様のお越しをお待ちしております。

かやぶんの会員の皆様、地域の皆様には、今年も大変お世話になりました。どうもありがとうございました。皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。

## かやぶんかわら版 第67号

平成22年12月22日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所(かやぶん)

〒408-0204 北杜市明野町上手8310  
明野歴史民俗資料館内

TEL/FAX 0551-25-2019  
ウェブサイト <http://www.kaya-net.jp>  
E-mailアドレス [info@kaya-net.jp](mailto:info@kaya-net.jp)